

道北の全道展

出席者	全道展会員	高橋北修
	◇	押川清
	◇	高橋武志
	◇	神田一明
	◇	神田比呂子
司会		森田喜昇

昭45. 5. 23 高橋北修宅にて

全道展の性格について

森田 会員の皆さんご多忙のところお集りをいただき有難うございました。道北の全道展と言うことを中心に話を進めていきたいと思いますが、先ず北修先生から全道展の性格についてお話しをしていただきたいと思います。



北修 終戦直後の混乱期に北海道新聞社の本社に会員達が集って

今後の道展をどのように続けてゆくかということ話し合ったが、当時道外作家が戦乱のをがれ疎開して札幌に在住していた人達が多かった。例えば三雲、田中、松島氏等であるが、これら作家や道出身者の作家を含めて再出発すべきだということになり、道展の規約の道内作家のみという性格を、全道美術協会と改称し、道出身者を含めた公募展と決定した。しかしその後道展をなくすのにしのびないと、今田、繁野、能勢氏等が道展に残り、当時小樽在住の国松氏、函館に居た田辺氏、小川原氏、それに私など全道展の設立に参加し、現在に至ったのです。

移動展について

森田 旭川に於ての移動展については、第8回全道展の移動展の新聞記事によると、当時一般20

円、学生10円が入場料であったことが分りますが北修先生、移動展の推移についてお話しいただけませんか。

北修 昭和28年より毎年7回続いて開催されていて、次の年に会場の都合で中止になりそのまま現在に至った訳です。その頃の移動展には、旭川在住会員は勿論、国松、上野山、岸等の各氏に私も加わって、本展会員の協力で日時を決めて、交代で作品の解説をし、大変好評で森田氏も解説したね。今年の5月9日に全道展旭川支部結成の集りを持ったら、会員6人、会友1人、一般出品希望者が22人も居る事が分り、非常に嬉しい。

高橋(武) 当時は道展の移動展がなく、全道展の移動展を見て、抽象画など強く印象づけられたし、又自分自身に刺激となった。確かに旭川に於る移動展の功績は大きかったと思う。しかし、絵画等は応募しても仲々入選出来ないという印象が強く、この事が道北地方の仲間が自然と少なくなった一つの原因でないかな？ この機会に仲間の連帯を強く持ち、一般出品者を指導し、育成してゆくべきでないかと思うね。

森田 今度の移動展について陶芸関係で何か感想をお願いします。



押川 陶芸 は初めての移動展ですが、地元の作家には相当の刺激

になる事は確かだ期待されますね。旭川の作品が多いと思うのですが、自分達の作品が旭川に来る

という事は、今後にも良影響があると思いますね。

神田(一) 北海道的なものとか、風土性とかを中心に考えるのではなく、広い視野から東京とか地方とかの区別なく、道内に居ても、道外の作家の作品と一緒に見られる機会を多くつくっている面で特色があるのでないかな？

森田 陶芸の作家のここ2、3年前からの全道展に於ける活躍はめざましいのですが、この点についてひとつつなにか……

押川 全道展に於ける陶芸作家の過半数が旭川の作家であり、移動展が他の地方に巡回することによっても、多くの陶芸人口が増えるし、広く作品を見てほしいですね。

北修 今回の移動展は旭川を含めて6カ所ですが、最近日高の静内も移動展開催が決定したと報告がありましたので、計7カ所になりその点、全道の愛好者に鑑賞してもらえると嬉しいです。

森田 彫塑については出品者が少ないのですが一般出品者に対しての参考になる言葉をひとつお願いします。



神田(比)
抽象的すぎると
思いますが
全道展の作品
は良いと思

ますよ。全道展には、なれた作品とか、彫刻性に富んだ作品があると思います。全道展には数は少ないですけど、本格的なものはありますよね。旭川については彫刻の鑑賞の機会が少ないですから、この移動展でいい作品を見てほしいと思います。彫塑は何点ぐらい移動展に回ってくるでしょうか？

北修 今回の移動展には彫塑は13点、絵画は100号以内70点、版画10点、工芸7点の作品の他に、地元的一般入選作品が加わりますから幅広く鑑賞できると思うね。

森田 旭川の彫塑をする人達に対しての期待はどうですかね。

神田(比) 道展に出している人は居りますが、全道展にも出品してほしいと思いますよ。全道展の彫刻を見る機会がなかったのが一因でないでしょうか？

北修 旭川から中原、加藤両先輩が出ているわりには、後に続く作家が出ないのは残念だね。

森田 版画に話題を変えたいと思いますが、道

北の全道展関係の版画は如何ですか。

北修 版画を「つつこんで」やる人で萩原氏等が出ているので、もっとどんどんやって作家を増していくべきだと思いますね。移動展では、他の展覧会に見られない版画の作品が多く巡回してきますから期待して下さい。又油画で地方在住で、かつて出品していた平間正造氏や宮崎弘氏、伊藤功氏等多くの人達がカムバックして全道展に今年出品するようになったので、頼もしく思っていますよ。

森田 会友の藤田周平氏も稚内から旭川に転居し健在ですから、いよいよ魅力を増してきましたが、その魅力について、一つには厳しさと言うものがあって、一般出品者が短期間でさっさと会員になるような甘さがなく、入選したり、落選したり、又落選したりして、この厳しさの中で「みがかれて」長く続いて行く事とか、会員のメンバーの顔ぶれ等あげても他にない魅力だと思いますよ。

神田(一)

それは言え
ますね。絵なん
かは特にそう
言う人達が居
て、厳しく鑑賞
されますね。命
がけて描く迫
力厳しさが
ただ芸術では
ないが、内に
秘めるものが
痛感されます
ね。



北修 それに加えて、一般社会人として制作を続けている人の中に、かつて学生時代に迫力ある作品を出して、就職してからも命がけて制作した絵を出す人が多いのも、全道展の魅力です。私のように絵で生活している者は、需要側との妥協が含まれて自由の中の不自由な制作を強いられるけれども、一般社会人として、まあ多くは学校の先生だが、趣味的になってプロ意識が「薄い」人が多いのは残念だね。かえって生活の保証があるのだから、私達より自由に制作し、迫力ある作品が出来るはずであるのに逆な結果が出ているのは一体どうした事だろうね。



高橋(武)
工芸部門が弱
いとも言える
が、努力して
良い作品を出

品すれば期待されて採り上げられる事はこの会の魅力だし、工芸ばかりでなく絵も彫塑も同じように後輩を強力に指導してくれる事も魅力を感じま